



基調講演



山田 太雲 (やまだ たくも) モニター デロイト シニアスペシャリストリード  
 テーマ:「コロナ後の世界においてSDGsが推進するポスト資本主義」

「ビジネスとSDGs」に関するナレッジ情報を発信するとともに、サステナビリティ関連のコンサルティング案件に社会課題・市民社会のエキスパートとして関与。国内外の政府・国際機関・NGOなどのステークホルダーと広範なリレーションを持つ。2002年から2015年まで国際NGO Oxfamにて、国際保健、税・財政と貧困・格差、気候変動などの分野で政策アドボカシーを担当。国連で行われた「持続可能な開発のための2030アジェンダ」(SDGs)交渉では、Oxfamの国際チームを率い、成果文書に提言内容を一部反映させた。

パネルディスカッション

「共創ネットワークの構築に向けて」

◆モデレーター | 堂目 卓生 (どうめ たくお) 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ長

京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。専門分野は 経済学史、経済思想。Political Economy of Public Finance in Britain 1767-1873 (Routledge 2004)で日経・経済図書文化賞、『アダム・スミス「道徳感情論」と「国富論」の世界』(中央公論新社、2008)で、サントリー学芸賞を受賞。2019年、紫綬褒章を受章。2001年より大阪大学教授。2018年より社会ソリューションイニシアティブ(SSI)長。



●山田 太雲 (やまだ たくも) モニター デロイト シニアスペシャリストリード

●萱島 信子 (かやしま のぶこ)

JICA緒方研究所シニア・リサーチ・アドバイザー  
 テーマ:「世界と日本をつなぐ国際協力」



国際協力機構(JICA)にて約40年間にわたり、主に教育分野の国際協力や開発研究にたずさわってきた。JICAの Bangladesh 事務所長、人間開発部長、JICA緒方貞子平和開発研究所長、理事等を務め、2021年より現職。名古屋大学にて博士号(国際開発)取得。編著書に『大学の国際化とODA参加』(玉川大学出版部)、『日本の国際教育協力—歴史と展望』(東京大学出版会)など。

●井上 剛志 (いのうえ たけし)

関西SDGsプラットフォーム運営委員長 / 関西経済連合会理事  
 テーマ:「関西商人の高い志 ~「世間よし」は社会課題解決 ~」



大阪生まれ大阪育ち。大阪大学法学部卒業。松下電器産業株式会社に入社し、テレビ事業部、スペイン松下電器株式会社、本社法務本部、パナソニックエコシステムズ株式会社などで営業および法務の実務経験を積む。途中、経団連21世紀政策研究所に主任研究員として出向。2017年5月より関西経済連合会に出向し、国際担当理事を務める。同年12月より、関西SDGsプラットフォームの立ち上げに従事し、運営委員長を務める。

●杉田 映理 (すぎた えり)

大阪大学大学院人間科学研究科准教授  
 テーマ:「月経とジェンダー平等 -アフリカから日本まで」



アフリカ村落部の水、衛生(トイレや手洗い行動)、月経対処に関して、フィールドワークをベースにした研究を行ってきた。現在は主に「月経をめぐるウェルビーイング」を考えるアクションリサーチを国内対象に実施している。JICA、東洋大学等での勤務を経て、2017年より現職。人類学PhD(フロリダ大学)。共著に『シリーズ人間科学助ける』、『緊急人道支援の世紀—紛争・災害・危機への新たな対応』など。

●伊藤 武志 (いとう たけし)

大阪大学社会ソリューションイニシアティブ教授  
 テーマ:「共感資本主義で、SDGs達成といのちの輝きを支える」



博士(経営学)。銀行、経営支援会社代表を経てSSIに参加。数百人の経営実務家との20年間の学び合いから、企業の経営管理・ガバナンス・管理会計・CSR・ESGを研究。現在は、アダム・スミスの経世済民思想や渋沢栄一の道徳経済合一説の実践に学んで研究範囲を拡げ、業界や市場経済全体の価値向上を目指す。論文に「社会に貢献する企業の経営管理—オムロンの事例研究を中心として」、著書に『BSCによる戦略マネジメント』など。